知っておきたい環境問題　農業・食料と自然環境

みどりの食料システム戦略（農林水産省）

自然災害に強くカーボンニュートラルで持続可能な食糧生産・流通・消費を目指し、農業の担い手不足や食品ロスを改善、農薬や化学肥料の使用量を現在の半分に減らし、有機農法の作付面積を25パーセントに増やすことなどが2050年までの目標。

慣行農法

魚をあまり食べなくなった

「自然農法」

日本で生まれた栽培法。化学肥料・農薬・有機肥料を使わない。機械で耕さず、草取りも控える。自然の中の植物・昆虫・微生物のはたらきで土の中の栄養を保つ。根が深く伸び、乾燥や病気に強いが収穫量を増やすことが難しい。個人や団体によって方法が異なり、法律の定義が無い。

私たちにできること
近くの生産者を応援しよう！
自分で作物を育てよう！

虫に食べられると売れない

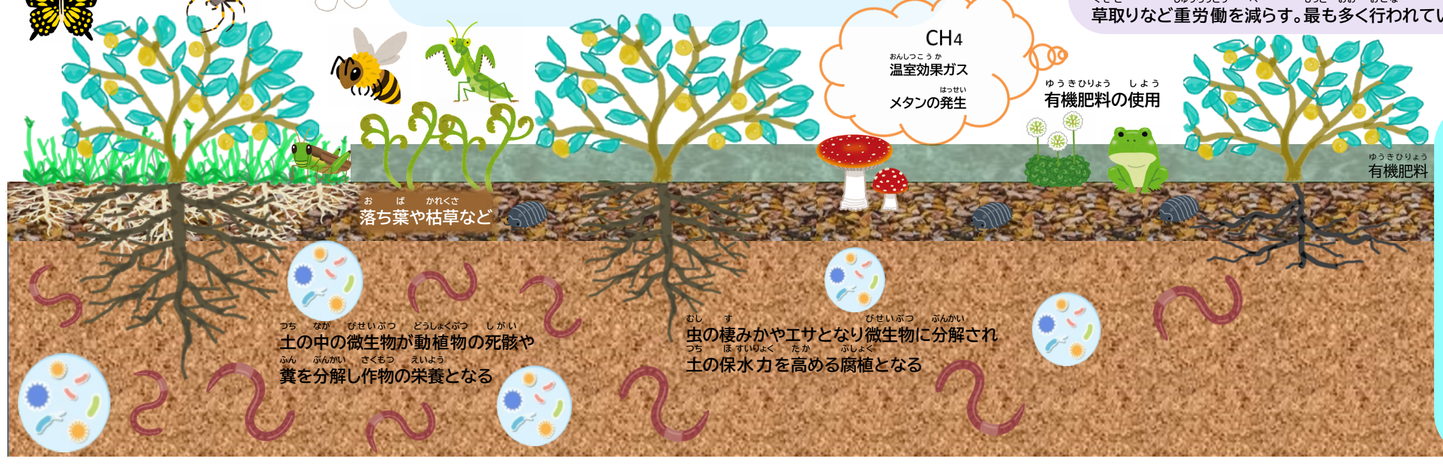
「有機農法」

化学肥料を使用しない・農薬を使用しない・遺伝子組み換え技術を利用しない。家畜排せつ物や落ち葉・食品残渣など有機物のみを肥料とする。捨てられるものを利用できる資源循環型農法。肥料のやりすぎや害虫、病気を防ぐ技術と手間が必要。

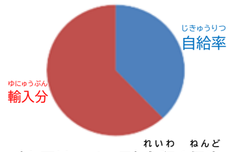
日本は夏の気温と湿度が高く、カビなどの細菌や害虫が多いため、農薬の使用量が多い国。

「慣行農法」

家畜排せつ物や食品残渣などの有機肥料と化石燃料などから作られる化学肥料を使用し、殺菌・殺虫剤、除草剤や成長を促すホルモン剤などの農薬を使用して収穫量と商品価値を保ち、草取りなど重労働を減らす。最も多く行われている栽培方法。



日本の食糧自給率は38パーセント



（カロリーベース）令和4年度
※農林水産省調査

卵や肉は国産でも育てるエサは外国産

大規模農業

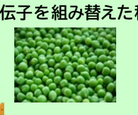
世界の食料生産の多くは石油から作られた肥料や農薬を使用する大規模な化学農法によるもので、気候変動や生物多様性・人の健康への影響が危ぶまれている。

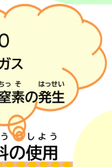
「ポストハーベスト」

外国から輸入される小麦や果物を、輸送中や倉庫保管中のカビや害虫の発生を防ぐために収穫後にも農薬が散布されること。

「遺伝子組み換え作物」

ダイズやトウモロコシ、食用油をとるナタネなど、味噌・豆腐・菓子など加工食品の原料、卵や肉のもととなる家畜の飼料として、外国で安く大量に生産される農作物には、除草剤などの農薬や害虫に耐えられるよう遺伝子を組み替えた種子が多く使用されている。





N_2O
温室効果ガス
一酸化二窒素の発生

化学肥料の使用

化学肥料

「水耕栽培」

水と肥料、光や温度などを人工的に管理する栽培。主に屋内で農薬を使用しない栽培も行われている。

土の中の有機物が減少するためミミズや微生物も少なくなる

保水性・保肥性が失われ土が荒れてしまう。

「熱帯林とパーム油」

インドネシア・マレーシアで世界の8割を生産するパーム油は熱帯林を伐採した大規模農園で栽培されている。

写真提供：ボルネオ保全トラスト・ジャパン

おうめ環境フェスタ2023基調講演

「青梅の山は子どもがつくる ～大人もいっしょに創ろうよ～」

12月9日 講演内容より

本公演は、幼少期～青年期教育に、なぜ「山遊び・山仕事」を取り入れたかを、3名の講師にお話しいただきました。

横山牧人 氏（青梅幼稚園 園長）

「共に生き共に育つ」を基本理念とし、「少人数保育」「自然保育」の下に、幼少期の原風景として、青梅の美しい山並みが浮かんでくるような保育を心がけています。2018年からこども達と山に入り、今では毎週、山肌や沢を巡る「森遊び」に出かけています。森はサワガニや木の葉など、一つ一つ違ういのちを生かしてくれます。その中で遊ぶ、ひとりひとり違うこども達には、驚くほど豊かな感性をあたえてくれます。これからは、更に楽しく走り回ったり、木のぼりのできる、明るい混交林の山作りを目指し取り組んでいきたいと思っています。

福田珠子 氏（二俣尾保育園 理事長）

【エンジョイ・フォレスト女性林研会長】

二俣尾保育園では、「自然労作」保育をしています。私は砂場を森に置き換え、所有林を園児たちの学びの場にしました。年間のカリキュラムとして、4月の山歩きでは、自然の中は初めて見るものばかりで、子どもたちは感性のおもむくまま、あちこち歩きます。5月は電動ボンベを使って壁掛けをつくり、6月はまた山歩きをして、山の地図作りをします。その時皆で探した樹齢200年位の大木に、耳を押し当てて聞こえる水音に、「木がお話しているよ」と大喜びで地図に書き込みます。このように年間を通じて、山歩きとモノづくりの作業を毎月することで、感性豊かな二つのソウゾウ「想像」と「創造」の才能が芽生え、「自然労作」保育が、豊かな人間形成の手助けになれば、と日々活動しています。

鬼沢真之 氏（学校法人自由の森学園 理事長）

【2017年ユネスコスクール登録】

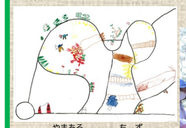
1985年飯能市に、「自由の森学園」が開校。しかしその後、学園周辺にゴルフ場建設の話が持ち上がり、保護者や生徒たちの反対運動が起きました。そこで地域との調和を図るため、2002年、高等学校で学園周辺の民有林を借りて選択林業講座を始めました。講座の目的は、

①森林と地球環境の関わりを知ること
②林業の現実と将来性を学ぶこと
③林業作業の体験学習
④地域の人々と出会い、その産業を学ぶこと

です。今では生徒たちも、地域の小学生に、山の間伐を教えています。また、地域の人工林は、暗い杉・桧しかないので、毎年白神山地に、明るいブナ林を見に行きます。今年は初めて見る森に、感動して大樹の前で動かなくなった生徒が、「俺やっぱり林業やる」と言っていました。現在、卒業生の10名以上が、各地の林業系の組合や作業所で働いています。

【講師3名のパネルディスカッションから】

・子どもが自由に入れる山作り方策の検討が必要。
・子どもが山に入り、自然の不思議さを知り、直接自然に触れることで、予想をはるかに超える感性の高まりが見られることがわかり、参加者の方々は、一層理解を深めることが出来ました。



山歩きの地図

おはなしの木

サワガニいたよ！

小学生にもできた